

# 「谷合氏見聞録」(青梅市二俣尾)

## 富士山宝永噴火の様子

宝永四年十一月二十三日(1707)に始まつた噴火

十月四日未ノ上刻大地震同夜ノ内小地震四度

五日朝六ツ時大地震 後二聞 大坂四国紀州大地震ツナミニテ

人夥シク流失 駿河遠州伊豆方向ツナミ

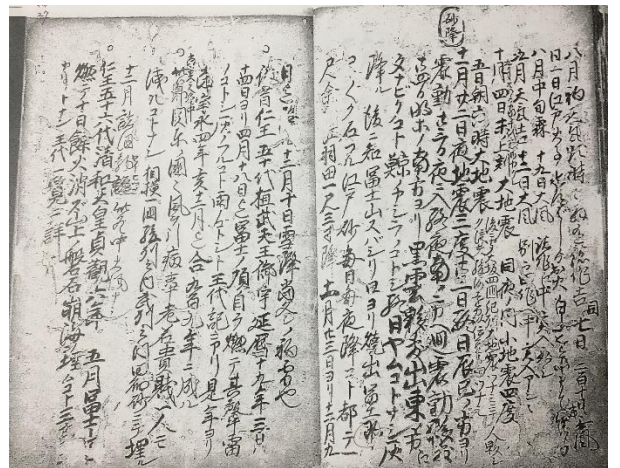
十一月廿二日夜地震三度 廿三日終日辰巳ノ方ヨリ振動 廿三日夜二

入終夜南ノ方へ廻振動夥敷 廿四明ホノ南方ヨリ黒雲夥敷出 東方<sub>江</sub>

タナビクコト鯨のカシラノゴトシ 終日ヤムコトナシ灰降ル

後二知 富士山スバシリロヨリ焼出 富士□□く石フル

江戸砂毎日毎夜降コト 都テ一尺余 □羽田一尺三寸降



十一月廿三日ヨリ十二月九日迄降ル 十二月十日雪降当冬ノ初雪也

○往昔仁王五十代桓武天王御宇延歴十九年三月

十四日ヨリ四月十八日迄富士ノ頂自ラ然テ其聲雷ノコトシ

灰ノフルコト雨ノゴトシ王代記ニアリ是年ヨリ

当宝永四年亥十二月迄合九百九年ニ成ル

○当該之冬中 此節関東ノ国々風ヲ引病事老若貴賤一人モ洩ルコト

ナシ 相模一國駿州之内 武州之内 田畑砂ニテ埋ル

十二月諸国静謐 此冬中大風ナシ